

State of the art

大腸癌取扱い規約 第9版

[大腸癌取扱い規約 – 次期改訂に向けて]

上野秀樹, 味岡洋一, 池 秀之, 石原聡一郎, 伊藤雅昭, 猪股雅史

Hideki UENO

Yoichi AJIOKA

Hideyuki IKE

Soichiro ISHIIHARA

Masaaki ITO

Masafumi INOMATA

浦岡俊夫, 大植雅之, 岡島正純, 金光幸秀, 河内 洋, 絹笠祐介

Toshio URAOKA

Masayuki OHUE

Masazumi OKAJIMA

Yukihide KANEMITSU

Hiroshi KAWACHI

Yusuke KINUGASA

九嶋亮治, 幸田圭史, 小林宏寿, 斎藤 豊, 島田安博, 関根茂樹

Ryoji KUSHIMA

Keiji KODA

Hirotohi KOBAYASHI

Yutaka SAITO

Yasuhiro SHIMADA

Shigeki SEKINE

田中信治, 村田幸平, 八尾隆史, 山口研成, 山口茂樹, 山田一隆

Shinji TANAKA

Kohei MURATA

Takashi YAO

Kensei YAMAGUCHI

Shigeki YAMAGUCHI

Kazutaka YAMADA

規約委員長

岡本耕一, 富田尚裕, 橋口陽二郎, 固武健二郎, 杉原健一

Koichi OKAMOTO

Naohiro TOMITA

Yojiro HASHIGUCHI

Kenjiro KOTAKE

Kenichi SUGIHARA

大腸癌研究会大腸癌取扱い規約改訂委員会

Summary

大腸癌の診断学・治療体系の発展の中心的役割を担ってきた大腸癌取扱い規約が扱う内容は多岐にわたるが、そのなかでも進行度分類は重要な柱である。本稿では、規約第9版の改訂過程を、特に進行度分類に焦点を当てて振り返りつつ、次期改訂に向けての取り組みと方向性を考察した。

本邦における大腸癌の診断と治療は多くの領域において独自の発展を遂げてきた。本邦での臨床や研究に役立つものであるべきとの大腸癌取扱い規約の一義的な役割を考えたとき、その改

訂にあたっては、本邦の診断学・治療法の発展の歴史や医療の現状に由来する規約の独自性(originality/identity)の価値には十分な重きを置くべきであろう。一方、時代とともに、世界標準であるUICC分類との整合性を図る重要性は増しており、独自性と国際基準との整合性のバランスには十分配慮する必要がある。さらには、今後は本邦で見いだされたエビデンスや、大腸癌取扱い規約に表現される独自性を海外に向かって発信する弛まぬ努力も必要と考える。

Key words

➤ 大腸癌取扱い規約 ➤ UICC分類 ➤ 進行度分類 ➤ 大腸癌研究会

はじめに

1973年に大腸癌研究会が設立された後、4年の歳月が費やされて1977年9月に大腸癌取扱い規約の初版が発刊

された。その後40年以上にわたり、本規約は日本における大腸癌の診断学、治療体系の中心的役割を担ってきた。

2018年に発刊された『大腸癌取扱い規約 第9版』(以下、規約第9版)は、「TNM分類 第8版(UICC)およびわ